練馬区立 中里郷土の森緑地

# 令和４年度モニタリング調査結果



# PURPOSE & METHOD

## 目的

- 地域の生物相の解明
- 区民のみなさまに自然の魅力を発信するための材料づくり

## 調査方法 METHOD

踏査により発見された動物類[※1]全般、維管束植物を記録する。動物類は個体数を記録。
植物類は基本的に開花結実[※2]状況がみられるものを記録した。
また、調査日以外に確認されたものがあれば追加で記録している。

### 1 中里郷土の森園内調査

- 週に１回実施。
- 植栽株[※3]を別途記録。
- 園内水辺の底生生物調査を年４回以上実施。

### 2 周辺緑地調査

- 月に１回実施。
- 中里郷土の森周辺の緑地を調査。

### 3 河川調査

- 年に１回実施。
- 白子川、石神井川の指定区域内を調査。
- 踏査の他、タモ網、投網による採取も実施。

※1：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類を対象とし、その他特記すべきものは別途記載。河川調査では魚類、甲殻類、その他底生生物も記録。
※2：シダ植物は年度の初認時に記録。その他、記録が無いものや特記すべきもののうち、樹齢や管理状況により開花結実が期待できないものを別途記録。
※3：状況や記録から明確に植栽とわかる種。不明なものや逸出したものはいずれの調査でも記録している。

### ビオトープ池調査

2022 年の春に池（通称：ビオトープ池）が新しく造成されたため、一年間調査を行い、出現種と、個体数を記録した。
飛来した昆虫類なども別途記録。



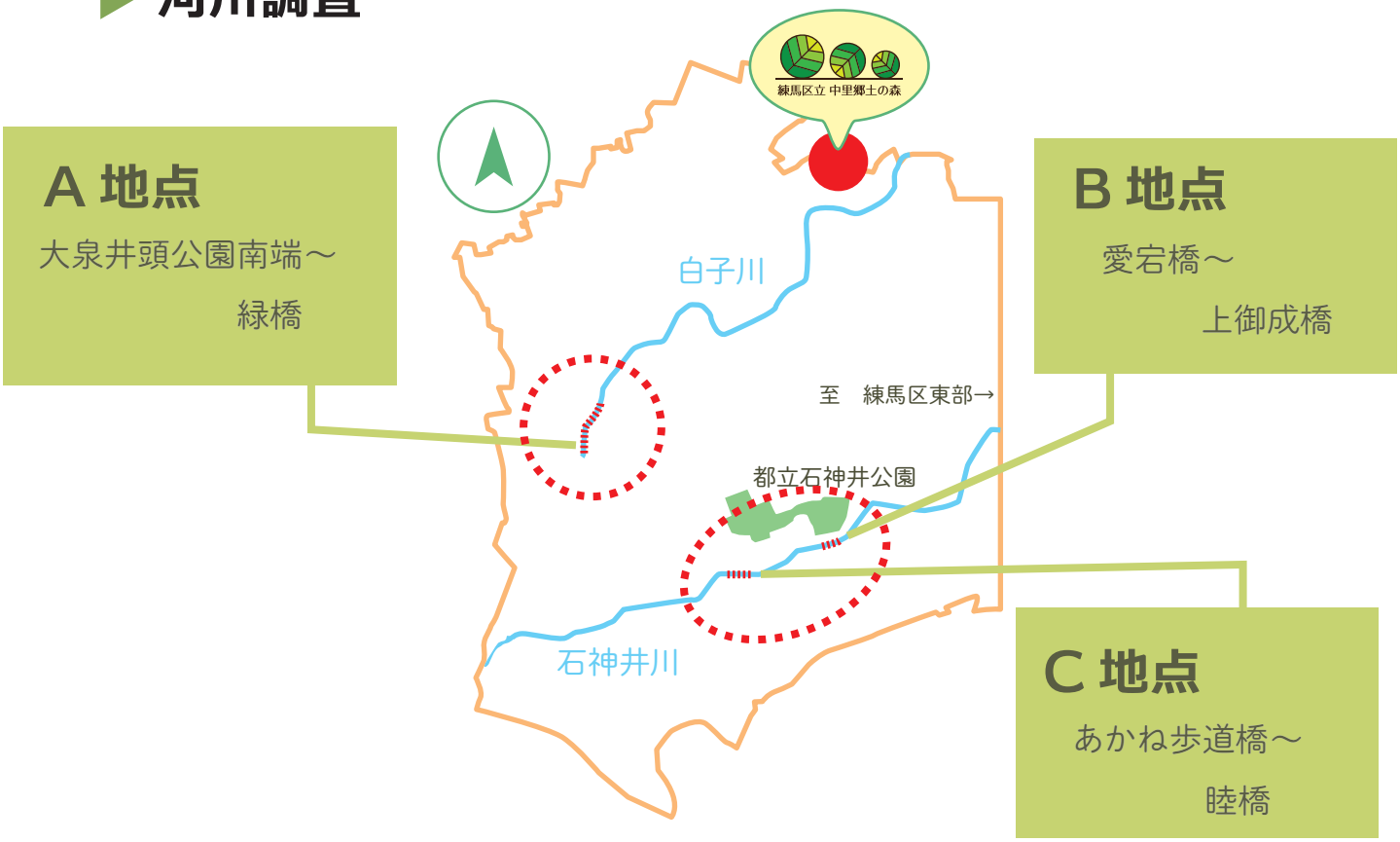
# 調査範囲

RANGE

## ▶ 中里郷土の森とその周辺緑地




## ▶ 河川調査




**A 地点**

大泉井頭公園南端～
緑橋

**B 地点**

愛宕橋～
上御成橋

**C 地点**

あかね歩道橋～
睦橋

# RESULT

## 絶滅危惧種
ENDANGERED SPECIES

### クサスゲ



絶滅危惧ⅠA類（CR）

清水山の森で確認。湿った場所を好む種で、一か所生育している。周囲の樹木が伐採されて環境が変わったが、今のところ良好に生育している。

### ニホンカナヘビ



絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

身近な種だが、区部で絶滅危惧Ⅰ類に指定されていることで今年ネットなどを通じて話題になった。当該調査ではほぼ全域で確認されている。

### フタバムグラ



絶滅（EX）

八坂神社で発見。区部では絶滅扱いだが、鉢植えの雑草として見つかることもあるため、土と一緒に持ち込まれた可能性も否定できない。

ランクは「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020 年版」区部のものを参照。

### 今回見られた絶滅危惧種

今回の調査では、都区部で絶滅危惧種とされている種を 56 種（NT, DD 含む）確認した。なお、植栽や明らかな逸出等は含めていない。

ミヤマアカネやハッカハムシなど確認されなかった種類もあったが、ノスリやヒロゴモクムシなど、新しく確認された種類も多かった。それぞれの緑地でしか確認されていない種類も多いので、それぞれの緑地の特性を活かしたまま保全されることが望ましい。

また、この結果とは別に、2010 年版の東京都レッドデータブックで絶滅危惧種と判定されたもののうち、2020 年度版では対象外とされたものが 15 種類記録された。今後データの蓄積が進めば、希少性が再認識される可能性がある。

| 種名 | みられた緑地 | 都区部 RDB |
|---|---|---|
| ゴマギ | 中里郷土の森 | EX |
| フタバムグラ | 八坂神社 | EX |
| ノスリ | 中里郷土の森 | CR |
| クサシギ | 白子川沿い | CR |
| クサスゲ | 清水山の森 | CR |
| ヒガシニホントカゲ | ほぼ全域 | CR+EN |
| ニホンカナヘビ | ほぼ全域 | CR+EN |
| アオゲラ | 土支田八幡宮など | EN |
| オオタカ | 中里郷土の森 | EN |
| ヒオドシチョウ | 中里郷土の森 | EN |
| ウバタマムシ | もみじ山公園 | VU |
| ヒロゴモクムシ | 八坂神社 | VU |
| ワニグチソウ | 稲荷山憩いの森 | VU |
| フモトシケシダ | 稲荷山憩いの森 | VU |
| ナガエミクリ | 白子川・石神井川 | VU |

今回確認された絶滅危惧種の一部（詳細は別紙参照）

# その他特徴的な種
OTHERS

## コカブト



平成 30 年に確認されて以来の記録。八坂神社と中里郷土の森で発見された。2020 年の都レッドリストでは評価対象外だが、2010 年版では区部で絶滅危惧ＩＡ類（CR）だった。

## ワレモコウ



古くからある草原植生にみられることが多いとされる。調査範囲内では八坂神社の富士塚のみでみられるが、例年に比べてかなり多く開花していた。

## ハビコリハコベ



グロッソスティグマの名前で販売されるアクアリウムプランツの一種。逸出したと思われるものが石神井川に多数生育していた。

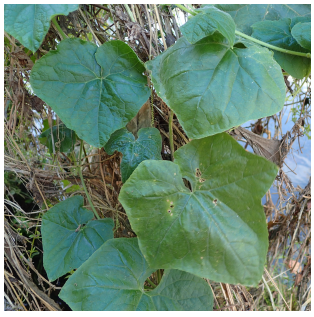
# 外来種
ALIEN SPECIES

## 中里郷土の森と周辺の外来種



昨年度確認されたガビチョウに加えて、ソウシチョウのさえずりが記録された。
また、近年分布を広げているクズクビボソハムシが今回初記録された。範囲内に食草のクズの生育数は少ないが、今後に要注目。

## 白子川・石神井川の外来種



石神井川で特定外来生物のアレチウリの生育を確認した。
調査範囲外だが区立武蔵関公園に生育箇所があり、そこから流れてきている可能性がある。
その他、個体数は少ないが白子川でカダヤシを確認した。
特定外来生物以外にもオランダガラシやハビコリハコベ、アメリカザリガニなど、侵略的外来種が頻繁にみられる。

### 特定外来生物

・アカボシゴマダラ
・ソウシチョウ
・ガビチョウ　　計 3 種

### その他生態系被害防止外来種

・セイタカアワダチソウ
・ワカケホンセイインコ
・クマネズミ　　…etc.　　計 26 種

### 特定外来生物

・オオカワヂシャ
・ミズヒマワリ
・アレチウリ
・カダヤシ　…etc.　　計 5 種

### その他生態系被害防止外来種

・オランダガラシ
・キショウブ
・ハビコリハコベ
・アメリカザリガニ　…etc.　　計 21 種

# 緑地ごとの特性

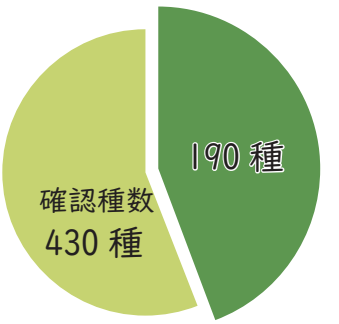
CHARACTERISTIC



## 中里郷土の森

ビオトープ池が新設されたこともあり、トビケラ類など水生生物で初記録の種が多かった。
特に昆虫や鳥類では来園者の利用によって発見される種も多く、今後も記録数が増えていくことが期待される。

この場所のみで確認



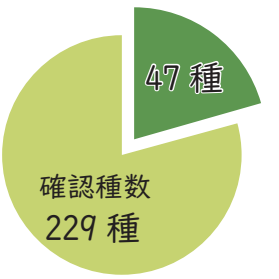

比較のため底生生物調査の結果は除いている。



## もみじ山公園

園内に生育するアカマツにて、ウバタマムシが初めて確認された。付近にアカマツは少ないため、園内で生活史を全うしていると思われる。広く生育していたアズマネザサやメダケが全面刈り取られたため、隠れ家としていた生物への影響が懸念される。

この場所のみで確認

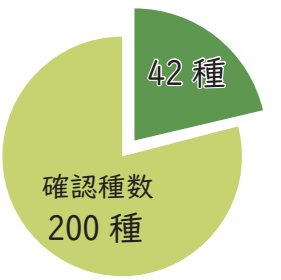





## 白子川沿い（万年橋～越後山橋）

冬季に、クサシギが初めて記録された。複数回確認されたので、通過ではなく越冬地として利用していたと考えられる。護岸底面でオオカワヂシャの繁茂が著しく、一部区画では底面の半分以上を覆っている様子が確認された。

この場所のみで確認

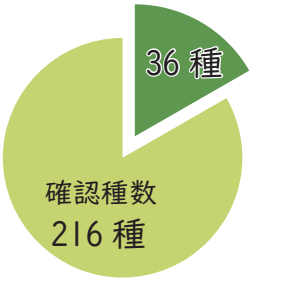





## 清水山の森

一部のエリアで樹木が伐採され、林床が明るくなったが、区部絶滅危惧ＩＡ類のクサスゲ含め顕著な影響は今のところみられない。カシノナガキクイムシに穿孔されたが枯死しなかったシラカシなどが複数あり、樹液に集まる昆虫類が例年より多く見られた。

この場所のみで確認

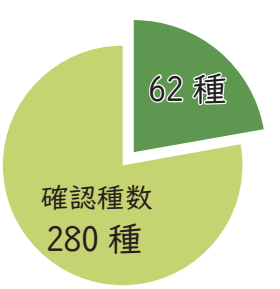





## 稲荷山憩いの森

昨年度に斜面のスギ林が伐採されたが、ススキやショウリョウバッタなど草地性の生物が多く生育・生息するようになった。今回、都区部絶滅危惧Ⅱ類のフモトシケシダが発見されたが、ごく狭い範囲にのみ生育しているため、今後の動向を注視したい。

この場所のみで確認





## 土支田八幡宮

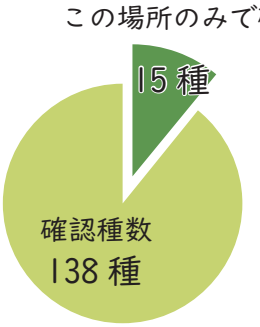
環境が安定しているので、去年度と比べて大きな変化はみられない。スギを主体とした針葉樹林と、一部に藪のような環境。シマトネリコやアボカドなどの逸出がみられるが、全体として照度が低いので侵略性は高くない様子。






## 越後山憩いの森

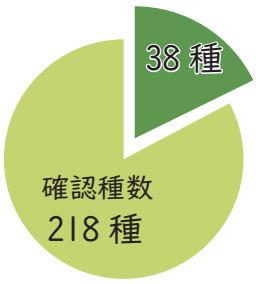
キンランやギンランなどの生育範囲に一時期落葉が高く積まれていることがあり、昨年より株数がかなり減っていた。毎年樹液が出て昆虫が集まっていた木が伐採されたが、別の木が代替的に機能している様子。






## 八坂神社

ワレモコウやシバなど、古くから管理された草原植生に特徴的な植物が見られる。このような環境は全国的にも減ってきており、昆虫類などの生物相も含めて豊かである。社屋周辺では、隣接する樹林が切り開かれ明るくなったため、その影響を注視する必要がある。




# 河川調査



## 白子川

ミズヒマワリやオランダガラシなど侵略的外来生物が多いが、それらの駆除が行われている源流部では比較的少なく、在来の水生植物が多い。春にトウキョウダルマガエルと思われる鳴き声が確認され、区部では貴重な繁殖地として機能している可能性がある。



## 石神井川

白子川と比べるとアメリカザリガニの密度が低く、その影響もあってかアイノコイトモやオオカナダモなどの沈水植物が多い。今回の調査では魚類の種数が少なく、発見されたのはほとんどがアブラハヤとヒガシシマドジョウだった。

# ビオトープ池調査結果

BIOTOP POND

2021 年に募集された葉っぴぃ基金にて、区民のみなさまからの募金を活用して新しい池「ビオトープ池」が造られた。
2022 年 3 月の完成から 1 年間を経て、どんな生物が見られるようになったのか調査した。

**調査方法**

- 季節ごとに 1 回ずつ、計 4 回の調査
- タモ網で底生成物を捕獲
- 調査時間・人数は 20 分 /1 人とする

（各回同じ方法で調査することで変化を比較する）



同様の調査を既存の池と小川でも実施。

## 水中の生物

**少なくとも 23 種類**の底生生物の生息が確認された。うち今まで園内で**確実な記録のなかったものは 13 種類**。ユスリカ科のヒゲユスリカ属など、明るい水草のある水域を好む種類も多くみられた。

### ギンヤンマ属の一種



春に産卵したものが成長したと考えられる。ヤゴ類が成長するにつれ、カの幼虫は全くみられなくなった。

### コミズムシ属の一種



園内では初記録。付近から飛来したものが産卵したと考えられる。写真は幼虫だが、成虫も確認された。

### ケンミジンコ科の一種



ヤゴ類の活動が鈍くなる秋から冬にかけてかなり個体数が多くなり、網ですくうと頻繁にみられるようになった。



ヒメシロカゲロウ属の一種



フロリダマミズヨコエビ



オオシオカラトンボ

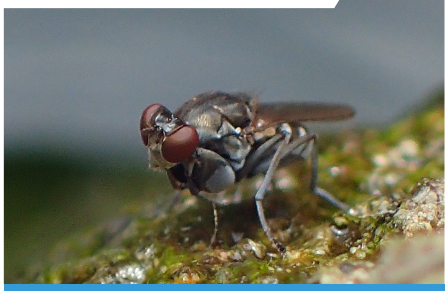


カイミジンコの一種

# 陸上の生物

外からも見えやすい位置に水辺環境ができたことで、水中の生き物だけでなく水辺が好きな生き物も多数記録された。初めて記録されたものも多い。

## ミナミカマバエ



カマキリのようにカマで獲物をとらえるハエ。水辺の岩などでみられる。
付近では中里泉公園で記録があるが、園内では初記録。

## ハネナガイナゴ



田んぼなど水辺を好むバッタの仲間。園内だけでなく付近でも記録がないので、かなり長距離を移動してきた可能性がある。

## スカシタゴボウ



木陰の広場の土を植栽箇所に撒いたところ、発芽した。
開園当初に記録されて以来見つかっていないため、５年ぶりの記録。

# 環境としての重要性

ビオトープ池ができたことで、明るい水辺が好きな生き物がみられるようになっただけでなく、室内から鳥の水浴びが観察できたり、トンボが多くみられるようになったりと、利用者の満足度にも寄与していると思われる。



窓から見えたムクドリの水浴び



虫捕りスポットとしても活躍



# 練馬区立 中里郷土の森

Address：練馬区大泉町 1-51-2

TEL　　：03-3922-3021

Mail　　：nakazato@ces-net.jp

https://www.ces-net.jp/nakazato/index.html